

2021年度 工業簿記及び原価計算 テスト

番号		氏名	
----	--	----	--

以下の各問題につき、空欄に適切な語句又は数字を入れなさい。

問題 1

次の取引について仕訳を示しなさい。

なお、当工場では A 材料の計算に予定消費単価を用いており、予定消費単価は A 材料 1 k g あたり 110 円である。

(1) 予定消費額の計算

A 材料の予定消費額は 7,700 円 (@110 円×70 kg) であり、このうち 7,150 円 (@110 円×65 kg) が直接材料費、550 円 (@110 円×5 kg) が間接材料費であった。

(借)	(貸)
-----	-----

(2) 材料消費価格差異の計上

A 材料の実際消費額は 8,400 円であった。

材料の予定消費額と実際消費額との差額を材料消費価格差異勘定へ振り替えた。

(借)	(貸)
-----	-----

(3) 売上原価に賦課

材料消費価格差異は、会計年度末にはその残高を売上原価勘定に振りかえる。

(借)	(貸)
-----	-----

問題 2

次の直接工の資料に基づいて、実際消費賃率、直接労務費、間接労務費を求めなさい。

(資料)

(1) 当月の賃金の消費額 (11/1～11/30) 7,200 円

(2) 当月の実際作業時間の内訳

直接作業時間 8 時間 間接作業時間 1.5 時間 手待時間 0.5 時間

実際消費賃率 円	計算式
直接労務費 円	計算式
間接労務費 円	計算式

問題 3

次の資料に基づいて、原価計算表（総括表）を作成しなさい。

(資料)

材料の当月消費額 (No.1 ; 2,000 円、 No.2 ; 1,500 円、 番号不明 ; 1,500 円)

賃金の当月消費額 (No.1 ; 2,000 円、 No.2 ; 2,000 円、 番号不明 ; 1,500 円)

経費の当月消費額 (番号不明 ; 3,600 円)

製造間接費は、各製品の機械運転時間を配賦基準として各製造指図書に配賦した。なお機械運転時間は 11 時間 (No.1 に対して 6 時間、No.2 に対して 5 時間) であった。

費目	No.1	No.2	合計
直接材料費	()	()	()
直接労務費	()	()	()
製造間接費	()	()	()
合計	()	()	()

問題 4

次の資料に基づき、当月の製造間接費配賦差異を計算し、さらに予算差異と操業度差異に分析しなさい。
なお、差異に関しては、不利差異には数字の前に△をつけること。

(資料)

(1) 年間予算データ

- ① 年間基準操業度 144 機械運転時間
- ② 公式法変動予算による年間の製造間接費予算
年間固定費 43,200 円 変動費率 200 円/時間

(2) 当月実績データ

- ① 実際機械運転時間 11 時間
- ② 製造間接費実際発生額 6,600 円

製造間接費配賦差異	(	円)
予算差異	(	円)
操業度差異	(	円)

問題 5

当工場では受注生産により製品を製造している。製造間接費は製造部門ごとに部門別配賦率を用いて各製品へ実際配賦している。以下の()内に適当な金額を記入しなさい。

(1) 11 月 1 日から 30 日までの材料、賃金、経費の消費額は次のとおりであった。

	製造指図書		製造指図書 番号のないもの	合計
	No.1	No.2		
材 料	2,000 円	1,500 円	1,500 円	5,000 円
賃 金	2,000 円	2,000 円	1,500 円	5,500 円
経 費	—	—	3,600 円	3,600 円

(2) 部門配賦率（実際配賦率）を用いて、製造間接費を各製造指図書へ配賦する。

- ① 製造間接費 6,600 円は部門個別費 3,550 円と部門共通費 3,050 円（福利施設負担額 1,050 円および建物減価償却費 2,000 円）であった。

(資 料)

部門共通費 の配賦基準	合計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工事事務 部門
従業員数	70 人	30 人	20 人	6 人	4 人	10 人
占有面積	400 m ²	170 m ²	160 m ²	30 m ²	20 m ²	20 m ²

部 門 費 配 賦 表

(単位：円)

摘要	配賦 基準	合計	製造部門		補助部門		
			切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門個別費		3,550	1,500	1,580	160	260	50
部門共通費							
福利施設負担額	従業員数	1,050	()	()	()	()	()
建物減価償却費	占有面積	2,000	()	()	()	()	()
部 門 費		6,600	()	()	()	()	()

② 補助部門費を直接配賦法によって各製造部門へ配賦する。

(資 料)

補助部門費 配賦基準	合 計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
動力消費量	800kwh	320kwh	320kwh	—	100kwh	60kwh
修繕作業時間	60 時間	24 時間	32 時間	4 時間	—	—
従業員数	70 人	30 人	20 人	6 人	4 人	10 人

部 門 費 配 賦 表

(単位：円)

摘要	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費	6,600	()	()	()	()	()
動力部門費		()	()			
修繕部門費		()	()			
工場事務部門費		()	()			
製造部門費	6,600	()	()			

③ 各製造部門費勘定に集計された補助部門費配賦後の製造部門費を、切削部門では機械運転時間を配賦基準として、組立部門では直接作業時間を配賦基準として各製品に実際配賦した。

なお、11 月の機械運転時間および直接作業時間は次のとおりであった。

(資 料)

		製造指図書 No.1	製造指図書 No.2	合計
切削部門	機械運転時間	4 時間	3 時間	7 時間
組立部門	直接作業時間	2 時間	2 時間	4 時間

原価計算表（総括表）

(単位：円)

費目	No.1	No.2	合計
直接材料費	2,000	1,500	3,500
直接労務費	2,000	2,000	4,000
切削部門費	()	()	()
組立部門費	()	()	()
合計	()	()	()

問題 6

(1) 次の資料により、平均法によって、月末仕掛品原価、完成品原価、完成品単位原価を求めなさい。

1. 生産データ

月 初 仕 掛 品	50 kg (0.2)
当 月 投 入	<u>85</u>
合 計	135 kg
仕 損	10
月 末 仕 掛 品	<u>25</u> (0.8)
完 成 品	<u>100 kg</u>

2. 原価データ

	直接材料費	加 工 費
月初仕掛品	5,340 円	1,080 円
当 月 投 入	8,160 円	14,520 円

(注 1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。また、() 内の数値は加工進捗度である。

(注 2) 工程の終点で仕損が発生している。これは、通常発生する程度のもの（正常仕損）である。
なお、仕損品の評価額はゼロである。

- ①月末仕掛品原価 () 円
 ②完成品原価 () 円
 ③完成品単位原価 () 円

(2) 次の資料により、先入先出法によって、月末仕掛品原価、完成品原価、完成品単位原価を求めなさい。

1. 生産データ

月 初 仕 掛 品	50 kg (0.2)
当 月 投 入	<u>85</u>
合 計	135 kg
仕 損	10
月 末 仕 掛 品	<u>25</u> (0.8)
完 成 品	<u>100 kg</u>

2. 原価データ

	直接材料費	加 工 費
月初仕掛品	5,340 円	1,080 円
当 月 投 入	8,160 円	14,520 円

- (注 1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。また、() 内の数値は加工進捗度である。
- (注 2) 加工進捗度 50%の地点で仕損が発生している。これは、通常発生する程度のもの（正常仕損）である。なお、仕損品の評価額はゼロである。

- ①月末仕掛品原価
 (
) 円
- ②完成品原価
 (
) 円
- ③完成品単位原価
 (
) 円

問題 7

次の資料により、月末仕掛品原価、完成品原価、完成品単価原価を求めなさい。月末仕掛品の評価は第 1 工程では平均法、第 2 工程では先入先出法によって行う。

(資 料)

1. 生産データ

	第 1 工程	第 2 工程
月初仕掛品	50 個 (0.2)	50 個 (0.4)
当 月 投 入	75	100
合 計	125 個	150 個
月末仕掛品	25 (0.8)	40 (0.5)
完 成 品	100 個	110 個

なお、材料は第 1 工程の始点ですべて投入されている。また、() 内は加工進捗度である。

2. 原価データ

	第 1 工程		第 2 工程	
	直接材料費	加 工 費	前工程費	加 工 費
月 初 仕 掛 品	5,340 円	1,080 円	12,120 円	3,450 円
当 月 投 入	8,160	14,520	?	15,950

第 1 工程		第 2 工程	
①月末仕掛品原価		月末仕掛品原価	
直接材料費	() 円	前工程費	() 円
加工費	() 円	加工費	() 円
計	() 円	計	() 円
②完了品原価		完成品原価	
直接材料費	() 円	前工程費	() 円
加工費	() 円	加工費	() 円
計	() 円	計	() 円
③完了品単位原価	() 円	完成品単位原価	() 円

問題 8

次の資料により、A 組製品と B 組製品についての月末仕掛品原価、完成品原価、完成品単価原価を求めなさい。
 なお、組間接費の配賦は機械運転時間を基準に行い、月末仕掛品の評価は、A 組製品は平均法、B 組製品は
 先入先出法によって行う。

(資 料)

1. 生産データ

	A 組製品	B 組製品
月初仕掛品	50 個 (1/5)	20 個 (3/4)
当 月 投 入	75	120
合 計	125 個	140 個
月末仕掛品	25 (4/5)	40 (1/2)
完 成 品	100 個	100 個
機械運転時間	500 時間	200 時間

なお、直接材料は工程の始点においてすべて投入されており、() 内は加工進捗度である。

2. 原価データ

		A 組製品	B 組製品
月 初 仕 掛 品	直接材料費	5,340 円	900 円
	加 工 費	1,080 円	800 円
当 月 投 入	直接材料費	8,160	4,800 円
	加 工 費	4,520 円	2,300 円
	組間接費	14,000 円	

A 組製品		B 組製品	
①月末仕掛品原価		月末仕掛品原価	
直接材料費	() 円	直接材料費	() 円
加工費	() 円	加工費	() 円
計	() 円	計	() 円
②完成品原価		完成品原価	
直接材料費	() 円	直接材料費	() 円
加工費	() 円	加工費	() 円
計	() 円	計	() 円
③完成品単位原価	() 円	完成品単位原価	() 円